

令和元年7月22日

阿賀野市議会議長 風 間 輝 榮 様

社会厚生常任委員会委員長 中 島 正 昭

所 管 事 務 調 査 報 告 書

本委員会は、令和元年第2回議会定例会において議決を経た、閉会中の所管事務調査を下記のとおり行ったので、会議規則第110条の規定により報告します。

記

- 1 調査事項 五頭の麓のくらし館移転整備計画の進捗状況について
- 2 調査期日 令和元年7月22日(月) 午後1時30分
- 3 調査経過

令和元年7月22日、米山民生部長、齋藤生涯学習課長、菅井健康推進課長、山崎社会福祉課長、並びに担当職員の出席を求めて本委員会を開催し、調査事項について旧山手小学校の現地調査及び担当課長から説明を受け、質疑・意見集約を行いました。

- 4 調査結果

五頭の麓のくらし館移転整備計画の進捗状況について

五頭の麓のくらし館は、旧出湯小学校の建物を利用した資料館で、遺跡からの出土品、近世・近代の民具や農具、五頭山周辺のジオラマ等、広範な分野の資料を数多く展示しており、阿賀野市内の小学生の校外学習にも活用され、長い間たくさんの方に親しまれていましたが、施設の老朽化により平成28年度に休館し、旧山手小学校の校舎へ移転することとなりました。

現在は、館周辺の考古資料以外の資料は旧山手小学校に運搬されており、その1つ1つに整理用の札がつけられ、種類ごとに分けられて、所狭しと床に置かれています。

生涯学習課では、1階と2階を展示室、3階を収蔵室にし、テーマ別に展示するよう計画していますが、限られた予算の中で、いかに資料館としての価値を高める展示をするか、監修や作業をする人材の確保をどうするか等が課題となっているとのことで、大変苦慮している様子が見られました。

また、予算的な面だけでなく、市民が愛着を持てる資料館にするためにも、自前のできることを市民ボランティアの手により展示することもひとつの案として考えているとのこと。

委員からは、「市内の小中学生が地域の歴史を学ぶ施設としては、それなりの教育的価値はあると思うが、この施設をよそから人を呼び寄せるような施設、まちおこしの起爆剤になるような施設にすることは難しいのではないか。」「このままでは、単に雑多な資料を保管するだけの収蔵場所になってしまうのではないか。」「瓦ロードや五頭温泉郷など、よそには真似できないものと連携すべき。」「五頭の麓のくらし館を生かしていくには、これを支える人材を育成することも重要である。」などの意見が出されました。

保管されている民具や農具は他でもよく見かけるようなものがほとんどで、歴史をひもとくような資料はないように感じました。予算も少額であり、移転整備計画が順調に進んでいるとは言い難い状況であることは残念でありませんが、現状では計画の中止、撤退が賢い選択であると考えます。

以上、社会厚生常任委員会の所管事務調査の委員長報告といたします。